

安全管理への取り組みについて

安全管理に対しても
組織的な取り組みを目指しています。

強度率が前年度より悪化

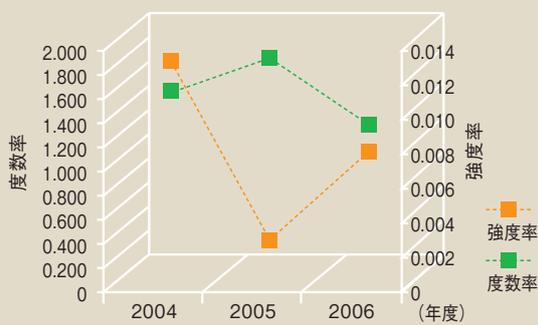


図 27 京都大学における労災強度率・度数率

2006年度は29件の労働災害、延べ183日の休業が発生しました。昨年度に比べ、度数率は下がりましたが強度率が上がっています。製造業等と比べると、労働災害件数が多く、1件当たりの休業が比較的少ないという特徴があります。

(注) 度数率とは、労働時間100万時間あたりの労働災害による休業件数を表します。
 $(\text{度数率}) = (\text{休業件数}) / (\text{労働者の延労働時間数}) \times 1,000,000$
 強度率とは、労働時間1,000時間あたりの労働災害による休業延日数を表します。
 $(\text{強度率}) = (\text{労働者の休業延日数}) / (\text{在籍労働者の延実労働時間数}) \times 1,000$

年次報告 ● 安全管理への取り組みについて

京都大学では、2006年度に29件の労働災害が発生しました。

その内容は、通勤時の事故や事務作業上での災害、特殊業務上での災害等多岐にわたっていますが、比較的軽微な事故が数多く発生している特徴があります。これらの多くは事前の対策や注意に組織的に取り組むことによって防ぐことができると考えられます。

2006年10月には右記のような紙裁断器による事故が発生しました。本学では、事態を重視し、事故発生状況の調査・確認を行い、全学に事故詳細を周知するとともに、紙裁断器の安全点検と正しい使用方法の徹底を依頼しました。

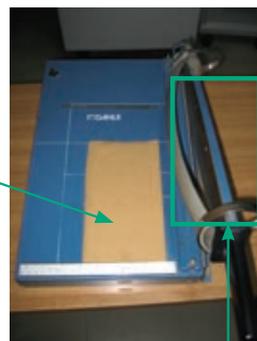
この事故は、正しい使用方法を守っていない点、定期的に裁断器の安全機能の点検を怠っていた点等に問題がありました。裁断器近くに正しい使用方法の掲示や日常の安全点検等を行っていけば、事前に防げた事故であったと

考えられます。

京都大学では、このような事前の対策や注意を行えば防ぐことができたであろう事故に対して、情報の収集と公表及び改善とその確認に組織的に取り組むことを目指しています。

事故の概要

通常は、こちら側から紙を挿入し、手は、ガードにより刃から保護された状態で裁断を行います。



事故防止用ガード

事故時は、ガードがない側から紙を挿入していました。紙裁断機自体が古く、刃の根元の静止機能が十分に効かなかったこともあって、作業者の指の上に刃が落ちました。